

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	すべての項目で概ね達成、ほぼ達成という結果になった。次年度に向けて、以下の点を改善・充実したいと考える。また、その際にはワークライフバランスを十分考慮しながら取り組む。①高学年については、ガイド学習のやり方を理解し自分たちで学習を進めることができるようになったが、中・低学年ではまだ十分ではない。学年ごとのマニュアルの整備・充実や話し合う力の向上を図ることで、主体的・対話的に学ぶことができるようにする。②ソーシャルスキルトレーニングを取り入れたことで、自己肯定感や他者を尊重する姿勢を育てることができた。ソーシャルスキルトレーニングは、実際の場面で使うことができるようにする。③自分の命は自分で守ることをさらに意識づける安全教育に取り組む。④学校日より、学級日よりや学校ホームページ等で定期的な情報発信を継続する。⑤山村留学に係る行事を含め各種行事の見直しを行い、さらに業務改善を進め、教材研究や研修の時間を生み出せるようにする。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成</p> <p>「進んで学習」「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」「自分も友達も大切に」</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①めあてをもって主体的に学習し、自分の考えを進んで発信する児童の育成</p> <p>②健やかな体と心もち、前向きに何事にも挑戦する児童の育成</p> <p>③自他や郷土の良さを知り大切にするとともに、相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研究等により取組の促進を図る。	B	・学校評価アンケート(教師用)の、「マイプランの成果指標を達成に向けた取り組みをおこなっているか」の質問に対して、「よくあてはまる」と回答した教師は40%であった。 ・PCのデスクトップにマイプランを貼り付けて、意識化を図る。	B	・デスクトップにマイプランを貼り付けて、意識化を図ることはできたが成果指標は達成することはできなかった。 ・次年度は校内研究により、授業実践の交流を行う。	B	・先生方からの反省点を聞いた。次年度は解消を目指して協力してほしい。	柴戸
	○主体的・対話的な学び手を育成する授業の実践	○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した児童90%以上	・1日1回のガイド学習の実践。学年ごとのマニュアルの整備・充実を図る。 ・「授業づくりのステップ1.2.3Vol2」を踏まえ、日常の授業に、子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を設定する。	A	・学校評価アンケート調査で、肯定的に回答した児童が100%であった。 ・3年生以上に継続してガイド学習を取り入れていく。 ・「話し合う活動」においては、各学年の目指す学びの姿を明確にして、教師及び児童間で共有化し、たうえで実践する。	A	・3年生以上にガイド学習を取り入れることができた。 ・次年度は、「話し合う活動」において、目指す学びの姿を教師及び児童間で共有化し、意識しながら授業実践をする。	A	・子どもたちが皆、大いに意見を出し合っているのに感心した。 ・全校スピーチの子どもたちが積極的に発言している姿がよかった。	富崎
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分も友達も大切にしている」と回答した児童90%以上	・ソーシャルスキルトレーニングの評価の充実を図る。(日常の学習・生活場面) ・月1回の人権集会の充実を図る。	A	・学校評価アンケート調査で、肯定的に回答した児童が100%であった。引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを評価まで合わせて計画的に行っていく。	A	・学校評価アンケート調査で、肯定的に回答した児童が100%であった。ソーシャルスキルトレーニングを評価まで合わせて計画的に行うことができた。 ・人権集会の充実も図ることができた。	A	・特になし。	富崎・柴戸
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校は楽しい。」と回答した児童90%以上	・月1回の「心のアンケート」の活用。 ・報告・連絡・相談及びいじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	A	・学校評価アンケート調査で、「学校は楽しい」と回答した児童は94%であった。 ・今後は、より家庭との連携を密にし、引き続き、心のアンケートを実施していく。	A	・学校評価アンケート調査で、「学校は楽しい」と回答した児童は100%であった。 ・心のアンケートではより子どもの思いを引き出せるよう質問項目を増やして実施した。今後も内容を検討していく必要がある。 ・教育相談週間を2学期末に実施することができた。来年度は学期に一回実施していきたい。また、日常的に子供たちの思いを引き出せるよう、お悩みポストの設置を進めていきたい。	A	・悩んでいたり、困っていたりしている子供に声をかけ、相談に乗られていることがよく分かった。 ・知る限りいじめの状況は、まったく見られない。	藤原・教頭
	◎ふるさとを誇りに思う教育活動	○北山東部小学校の自慢を2つ以上答えることができた児童90%以上	・生活科、総合的な学習、国語科等と関連させた地域の特色を生かした学習の充実を図る。	A	・学校評価アンケート調査で、肯定的に回答した児童が100%であった。ふるさとの良さに触れる教育活動の充実を継続する。	A	・学校評価アンケート調査で、肯定的に回答した児童が100%であった。ふるさとの良さに触れる教育活動の充実を継続する。ふるさとの良さを学習できる題材と学習内容の開発を継続していく。	A	・地元の子、山村留学の子どもたちふるさとのよさを認識させよう努力させられている。	田中
●健康・体づくり	④安全に関する資質・能力の育成	○「『自分の命は自分で守る』ために考えながら行動することができた」と回答した児童90%以上	・各避難訓練や安全指導の中に、児童の判断場面や思考場面を設定することで危機察知能力や危機回避能力の向上を図る。 ・関係機関と連携した防災教育を実施する。	B	・「『自分の命は自分で守る』ために考えながら行動することができた」と回答した児童100%(よくあてはまる76%、ややあてはまる24%) ・避難訓練において、児童の思考判断場面の設定に工夫を加え、危機察知能力や危機回避能力のさらなる向上を図る。	A	・「『自分の命は自分で守る』ために考えながら行動することができた」と回答した児童100%(よくあてはまる88%、ややあてはまる11%)子どもの思考・判断場面を入れた二度の避難訓練は有効であった。 ・感染症対策では、教師の危機意識の向上と具体的方策の実施が今後さらに重要となる。	A	・大きな問題となっているコロナの対応についてもしっかりと指導されている。	黒岩
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各行事・取組における前年度踏襲の見直しを図る。 ・「働き方改革」のための議論の場を年間2回以上設定する。(改善アンケート7月、1月) ・教諭等の業務の一部を支援する等事務職員の学校経営への参画を進める。	B	・4月～9月の時間外在校等時間の上限(45時間以内)を守ることはできた月は、4/6月であった。※職員平均 ・引き続き、職員の声による行事等、業務見直しを推進する。 ・月の折り返しに上限の半分を超えた場合と、月末に上限を超えた場合は、該当者と働き方を振り返り、改善策を共に考える場を持つ。	B	・10月～1月の時間外在校等時間の上限(45時間以内)を守ることはできた月は、3/4月(11月以降)であった。※職員平均 ・時間外勤務に対する職員の意識と業務の軽重の付け方に改善が見られ、できるだけ早く切り上げて退勤する習慣がつつつつある。 ・時間外勤務年間300時間以内に近づけるために、職員間で声を掛け合い、アイデアを出し合いながらの取組としていく。	B	・他校と違う山村留学への取組をされているので、在校時間が長くなると思われる。難しいところであると感ずる。	教頭・太田

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)								
○特色ある学校づくりの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○山村留学に関わる取組の中で、3つ以上の取組について、質・量の改善を図る。	・教育活動の見直しを行い、学校の特色となる取組の焦点化・重点化を図り学校の魅力度アップに努める。 ・管理職を通じて学校の取組や働き方の状況を継続的に伝え、対話を通して地域の理解を促進する。 ・ホームページ、学校だよりで学校の取組を広く発信し学校の特色を広げる。	B	・山村留学については、持続可能な視点で実行委員会(保護者・地域)による、取組の変更・改善についての議論が始まった。 ・学校の特色となる取組の焦点化・重点化として、学校評価計画の重点取組項目の推進を図る。 ・ホームページ、保護者・地域の集まりの場等での学校の取組の発信の強化を図る。	B	以下2つの点で、改善を図ることができた。 ・実行委員会(保護者・地域・学校)による議論を重ね、次年度に向けて、持続可能な山村留学のあり方についての方向性が定まった。 ・ホームページで、休みの日を除くほぼ毎日、学校の取組や子どもたちの様子を発信することができた。	A	・山村留学という特色ある取組を実践されており、先生たちの努力に感心している。 ・地域で批判を聞くこともない。良い取り組みにしていきたいことに感謝する。	教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・すべての項目で十分達成、おおむね達成となった。業務改善及び職員の働き方に対する意識改革も進み、教育の質の向上、職員のワークライフバランスの改善につながった。次年度は、更なるワークライフバランスの充実を実現させながら、以下4点の改善・充実に取り組む。</p> <p>①学習中、指示待ちの姿が見られる。向上心・探求心もち、自ら主体的に学びを進める態度の育成を図る。</p> <p>②この少人数の中でも、自分の考えを発信することをためらう児童も多い。何事にも失敗を恐れず挑戦する態度を養う。</p> <p>③学年相応の役割や望ましい行動についての判断場面や思考場面を設定し、「いつでも・どこでも・だれとでも」の具現化を図る。</p> <p>④地域、保護者、学校職員の議論を重ね、持続可能な取組としての山村留学の新しい形を創造していく。</p>
--------------------	--